

# 平成 18 年度各種委員会報告

## 1. 教育委員会

委員長 小 原 孝 男

### 1. 卒後教育セミナー（資料 1）

- 1) 第 69 回は「DPC と外科診療」のテーマで昨春第 106 回定期学術集會に並行して、幕内雅敏前会長のお世話で東京都にて開催した（参加者 1,179 名）。
- 2) 第 70 回は「外科のチーム医療」のテーマで昨秋第 68 回日本臨床外科学会総会の浅原利正前会長にお世話いただき広島市にて開催した（参加者 523 名）。
- 3) 平成 19 年度の実施計画としては、資料 1 の如く第 71 回を 4 月 13 日に門田守人会長のお世話で開催する。
- 4) 第 72 回は今秋、横浜市において、第 69 回日本臨床外科学会総会の草野満夫会長にお世話いただき開催予定である。テーマは「ビデオによる吻合・縫合のすべて」として、ビデオ講演とすることから、研修医など若い外科医の研修や学習に役立つよう DVD にまとめてセミナー当日に頒布する予定である。

（資料 1）

### 日本外科学会第 71 回卒後教育セミナー

日 時：平成 19 年 4 月 13 日（金）13:00～16:30

第 107 回日本外科学会定期学術集會三日目

場 所：大阪国際会議場 大ホール（第 1 会場）

世話人：門田 守人（大阪大学外科・日本外科学会会長）

企 画：浅原 利正（広島大学外科・日本外科学会教育委員）

テーマ：卒前卒後教育・研修教育で外科をどう教えどう学ぶか

座 長：畠山 勝義（新潟大学消化器・一般外科）

講演 1：行政からみた卒前教育と新医師臨床研修制度

村岡 亮（厚生労働省医政局医事課医師臨床研修推進室）

講演 2：研修教育のあるべき姿

宮城征四郎（臨床研修病院郡プロジェクト、群星沖縄臨床研修センター）

講演 3：医療面接とコミュニケーション教育

藤崎 和彦（岐阜大学医学教育開発研究センター）

座 長：浅原 利正（広島大学先進医療開発科学外科）

講演 4：卒後臨床研修必修化後の実務的な外科教育

藤堂 省 (北海道大学消化器・一般外科)

講演 5: 外科専門医制度における教育と評価法

中尾 昭公 (名古屋大学消化器外科)

講演 6: 外科専門医予備試験の傾向と今後の方向性について

里見 進 (東北大学先進外科)

座 長: 幕内 博康 (東海大学外科)

講演 7: 大型動物を用いた実験システムによる

学生・スーパーローテーターに対する外科学への興味誘導

小林 英司 (自治医科大学分子病態治療研究センター)

講演 8: 内視鏡外科手術手技の教育と評価法

岡島 正純 (広島大学内視鏡外科)

卒後教育セミナーは、本学会外科専門医制度規則施行規定により指導医の選定申請 (春季は定期学術集会に参加しなかった場合のみ) 及び更新申請、外科専門医の移行認定申請及び更新申請 (10 単位) の際の研修実績に加算することができる旨、周知方お願いしたい。

## 2. 映像による私の手術手技—フィルムライブラリー (資料 2)

平成 19 年度の「映像による私の手術手技」は資料 2 の様に決定しており、映像製作費として一人 50 万円の補助を行っている。

全作品 (154 本) の DVD は、1 本 4,200 円で頒布し、本年度は 313 本の申込があった。

選定は、学術集会で講演いただくこともあることから会長と相談の上、決定していたが、今後は学術集会とは切り離し、従来の功労的な意味合いばかりではなく、アンケート調査などによる会員の要望を集めて人選する、あるいは、学術集会のビデオセッション等から優れた講演を選定するなどの方法も検討中である。

(資料 2)

### 映像による私の手術手技

三領域リンパ節郭清食道癌根治手術の低侵襲化

落合 武徳 (千葉大学先端応用外科)

甲状腺癌に対する甲状腺全摘・頸部リンパ節郭清—遺伝型髄様癌

小原 孝男 (東京女子医科大学内分泌外科)

正常膝症例における PPPD の際の膝管空腸吻合術

田中 雅夫 (九州大学臨床・腫瘍外科)

膵頭部癌に対する門脈合併切除を伴う Isolated Pancreatoduodenectomy

中尾 昭公 (名古屋大学消化器外科)

Hirschsprung 病に対する腹腔鏡補助下経肛門的結腸 pull-through

宮野 武 (順天堂大学練馬病院小児外科)

## 3. 生涯教育セミナーについて

1) 平成 18 度は「Surgical Site Infection の新しい対策」のテーマで開催した。全国 7 地区で合計 572 名が受講され順調に実施されている。

2) 平成 19 年度のテーマは「診療ガイドラインをどう生かすか」で開催中である。

#### 4. 市民講座について

- 1) 第 30 回は東京都において、幕内雅敏前会長のお世話で「そのときあなたは どうする？ 移植といわれたら」のテーマのもとに開催され、123 名の聴衆を集めた。
- 2) 第 31 回は広島市において、第 68 回日本臨床外科学会総会の浅原利正前会長のお世話で「がんの先端医療—予防、診断から治療まで—」のテーマのもとに開催され、350 名の聴衆を集めた。
- 3) 第 32 回は 4 月 14 日に「そのときあなたは どうする、がんで手術といわれたら」のテーマのもと門田守人会長のお世話で開催する。
- 4) 第 33 回は今秋、横浜市において、第 69 回日本臨床外科学会総会の草野満夫会長にお世話いただき開催予定である。

## 2. 邦文誌編集委員会

委員長 田 林 暁 一

### 邦文誌（日本外科学会雑誌）について

本誌の充実をめざして邦文誌編集委員会を 3 カ月に 1 度開催し、第 108 巻 2 号および臨時増刊号（抄録集）を会員に配付した。

### 邦文誌の内容

#### 1. 会員より原稿を募る

症例報告、研究速報、総説、随筆、提言、学会出席者の感想文、私の療養体験、会員の近況報告、私の作品（写真、絵、短歌、俳句など）

#### 2. 原稿依頼

- a. 特集…編集委員により企画する依頼原稿  
（第 98 巻第 8 号より特集のテーマの立案に対し本委員会で審議の上、担当委員制度を設定した）
- b. 外科学会会員のための企画…会員に役立つような内容を企画する依頼原稿
- c. Editorial…編集委員が執筆
- d. 手術の tips and pitfalls…図を中心とした依頼原稿
- e. 学会報告
- f. 本学会の特別講演者、教育講演者などに依頼
- g. 卒後教育セミナーの講演要旨（第 48 回卒後教育セミナーより掲載）

#### 3. 掲載料金

- a. 総説、症例報告 5 万円
- b. 研究速報 3 万円
- c. 随筆、提言、学会出席者の感想文、私の療養体験、会員の近況報告、私の作品（写真、絵、短歌、俳句など）無料。枚数超過の場合は 1 万円
- d. 学会・研究会案内 1/3 頁 2 万円

#### 4. 依頼原稿執筆料

会員は 5 万円、非会員は 10 万円。（特集の前文や Editorial を執筆する編集委員は無料）

なお、本誌の Quality を向上させるため英文抄録の Check を第 99 巻第 1 号より Ms. シンシア氏に 1 編 2,250 円にて依頼している。

### 3. 英文誌編集委員会

委員長 田 中 雅 夫

#### 英文誌 (Surgery Today) について

平成 18 年度中に 930 編の投稿原稿があった。同年発行の第 36 巻には 231 編が掲載され、平成 18 年度の採用率は 24.8%、通算採用率は 49.6% であった。

平成 12 年度より、投稿から掲載までの期間を短縮するため原著論文については査読期間を 4 週間から 2 週間に変更した。なお、平成 15 年度から統計に疑義がある論文については統計学者に査読を依頼している。編集幹事会にて審議する原稿については、査読者及び英文誌編集委員長が掲載可能と判断した時点で編集幹事会にて審議することとしていたが昨年 1 月 30 日より導入された電子査読システム (Manuscript Central) により編集幹事会を発展的解散とし Associate Editor 制を新たに設置した。

昨年度より投稿から採否決定までの期間が平均 5 ヶ月へ、また掲載までの期間は平均 13 ヶ月となっている。

また、歴史ある機関誌 Surgery Today を全世界に向けて広く衆知させるために、「Surgery Today」及び「The Japanese Journal of Surgery」の電子化を完了し閲覧可能となっている。

昨年度研究助成委員会が廃止され、本委員会が研究奨励賞の授賞者選定を引き継ぎ行うこととなった。そして本年度授賞者を下記の如く決定させていただいた。

最後に投稿原稿数の増加とともに編集委員並びに評議員の負担も年々大きくなっており、この場を借りて厚くお礼申し上げたい。

#### 第 13 回研究奨励賞授賞者 7 名

小村 伸朗 (東京慈恵会医科大学外科)

Therapeutic Effects of a Laparoscopic Heller Myotomy and Dor Fundoplication on the Chest Pain Associated with Achalasia 36 : 235—240

肥田 仁一 (近畿大学医学部 外科)

Long-Term Functional Outcome of Colonic J-pouch Reconstruction After Low Anterior Resection for Rectal Cancer 36 : 441—449

小泉 大 (自治医科大学消化器一般外科)

Preoperative Cardiac Evaluation: When Should the Surgeon Consult the Cardiologist? 36:425—435

小林 慎 (社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院外科)

Design of a New Technique Using a Free Tracheal Autologous Graft for Reconstruction of the Cricoid Cartilage and Trachea 36 : 316—320

高田 理 (自治医科大学附属大宮医療センター外科)

cDNA Array Analysis for Prediction of Hepatic Metastasis of Colorectal Carcinoma 36 : 608—614

浅香 晋一 (東京女子医科大学東医療センター外科)

Genetic Prognostic Index Influences Patient Outcome for Node-Positive Breast Cancer 36:793—801

宮口 直之 (岡山大学医学部附属病院腫瘍胸部外科)

Transintestinal Systemic Oxygenation Using Perfluorocarbon 36 : 262—266

掲載原稿種別表

年次	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94
巻数	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
投稿数	119	102	142	164	131	151	179	197	208	275	268	322
掲載数	95	89	83	76	87	119	116	119	120	107	206	222
採用率 (%)	79.8	87.3	58.5	46.3	66.4	78.8	64.8	60.4	57.7	38.9	76.9	68.9
Editorial	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Review	5	4	12	4	6	5	7	6	1	7	1	5
Original	75	77	50	44	47	71	59	67	67	59	107	106
Case Report	0	0	12	19	25	33	44	38	47	37	89	93
Short Communication	10	5	7	9	6	6	2	7	5	3	7	8
How to do it	3	3	1	0	3	4	1	1	0	1	2	10
Others	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
Impact Factor							0.21	0.223	0.188	0.163	0.118	

年次	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06
巻数	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
投稿数	339	419	443	429	438	424	509	607	667	623	566	930
掲載数	211	212	245	281	271	239	247	243	214	238	216	231
採用率 (%)	62.2	50.5	55.3	65.5	61.8	56.4	48.5	40.2	32.5	43.9	38.2	24.8
Editorial	0	0	7	9	1	0	0	0	0	0	0	0
Review	5	3	2	1	1	4	2	3	0	8	13	5
Original	101	82	120	102	100	97	86	88	76	102	102	102
Case Report	88	99	97	152	145	129	142	146	134	113	91	109
Short Communication	5	9	9	6	9	2	6	2	2	2	1	1
How to do it	12	7	10	11	14	7	11	4	2	13	8	10
Others	0	12	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
Impact Factor	0.171	0.209	0.233	0.303	0.379	0.356	0.480	0.501	0.528	0.553	0.478	

投稿数内訳

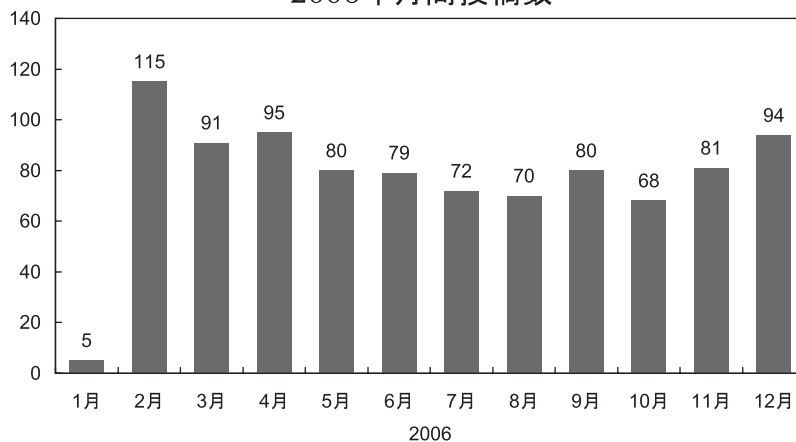
Original	145	171	149	166	196	222	174	146	232
Others	284	267	275	343	411	445	449	420	671

年次		03	04	05	06
投稿数		667	623	566	930
脳神経		0	0	0	0
内分泌 (含乳腺)		19	19	22	19
心		16	16	15	16
肺		14	26	21	23
血管		16	35	24	21
消化器		116	94	86	99
移植		4	3	8	0
小児外科		7	13	6	7
一般その他		25	32	34	46
掲載数		217	238	216	231

## 外国投稿内訳表

年次	98	99	00	01	02	03	04	05	06
巻数	28	29	30	31	32	33	34	35	36
外国の投稿内訳									
Ireland	0	0	1	1	0	2	5	0	2
United States	5	4	9	5	7	11	9	8	28
United Kingdom	2	0	1	9	9	7	9	2	29
Israel	0	1	0	2	1	4	1	2	2
Italy	7	5	10	17	15	31	19	27	56
India	6	19	17	23	21	18	13	6	33
Netherlands	0	0	1	2	0	0	1	0	7
Korea, Republic of	1	2	6	8	7	9	8	20	22
Greece	0	2	2	10	21	22	29	40	42
Saudi Arabia	0	0	0	2	6	3	0	1	6
Singapore	0	0	0	1	0	0	4	1	6
Switzerland	0	0	1	0	2	1	1	1	1
Spain	0	1	0	0	2	2	7	24	6
Taiwan - Republic of China	2	3	5	9	8	27	22	7	38
China	1	0	1	5	4	5	5	8	36
Germany	1	4	7	7	9	11	11	11	15
Turkey	36	50	43	92	133	169	129	96	228
Nepal	0	0	0	1	0	1	1	1	6
Brazil	0	1	2	1	3	2	1	3	9
France	0	2	0	1	3	1	5	4	7
Mexico	0	0	0	1	0	2	2	2	3
Jordan	0	0	1	0	2	1	1	0	2
Russian	0	0	1	0	0	0	0	0	1
Australia	0	0	0	0	2	2	1	1	1
Croatia	0	0	0	0	1	0	2	1	5
Czech Republic	0	0	0	0	2	0	1	2	1
Iran, Islamic Republic of	0	0	0	0	1	0	3	1	4
Poland	0	0	0	0	2	4	3	3	4
Canada	0	0	0	0	0	1	0	1	2
Serbia And Montenegro	0	0	0	0	0	1	1	0	2
South Africa	0	0	0	0	0	1	0	0	1
Sri Lanka	0	0	0	0	0	1	0	0	1
Thailand	0	0	0	0	0	2	1	2	6
Others	7	15	1	5	8	11	6	5	0
合計	68	109	109	202	269	352	301	280	612

## 2006年月間投稿数



## 4. 国際委員会

委員長 兼 松 隆 之

### 1. 国際会議情報について

本会と密接な関連がある国際学会ならびに主要国の外科系学会の最新情報を逐次整理して、日外会誌上に随時掲載している。

### 2. 外国人名誉会員の推薦について

第1号議案で報告のあった2名を推薦した。

### 3. ドイツ外科学会との若手外科医の学術交流制度について

本会とドイツ外科学会とでそれぞれの学術集會に日本側、ドイツ側から推薦のあった若手外科医を1名ずつ招聘し、昨年より学術発表の機会を与える交流となったが、昨年5月に開催された第123回ドイツ外科学会には隈元雄介先生（東京電力病院外科）が参加した。本年5月の第124回は、齊藤博昭先生（鳥取大学病態制御外科）が参加予定である。

### 4. American College of Surgeons (ACS) との若手外科医の学術交流制度について

本会ならびに ACS Japan Chapter と ACS とでそれぞれの総会に日本側、ACS 側から推薦のあった若手外科医を1名ずつ招聘し、学術発表の機会を与える交流を平成15年度より行っている。

昨年10月に開催された第92回 ACS には江口晋先生（長崎大学移植・消化器外科）が参加した。本年10月の第93回は現在選考中である。

### 5. Society of University Surgeons (SUS) との交流について

従来から交流を行ってきた SUS については、国際委員会が交流の窓口となっている。

今年度も相互の学会代表者を学術集會に招聘し、交流を行っている。

### 6. デベロピングカントリーの外科医との交流（トラベルグラント）について

第93回総会より実施されたこの制度は、第94回総会の際から本会の正式事業として、30名分の旅費を補助している。本年度も、選考に際しては会長のサポートに徹した。

選考時に考慮すべき要件（覚書き）

- 1) 地域性
- 2) 研究発表の分野
- 3) 複数回の応募（当選している場合と、応募するも落選している場合が考えられ、前者は選考から外し、後者については選考の対象とし、できれば選出する）

### 7. I.F.S.C. (International Federation of Surgical Colleges) について

昭和55年度より再加入し交流を開始しているが、今村正之先生が対処している。その事業としては各国外科学会の情報の収集、分析、WHO の諮問に対する提案、発展途上国外科学会に対する助言と外科医の短期間派遣などの援助を行っている。

### 8. 研修証明書 (Certification) 発行について

平成4年度より、本会の認定施設において研修を行った海外からの留学医師に対して標記を授与している。規定は下記の通りである。

海外からの留学医師に対する研修証明書 (Certification) 規定

- 1) 本証明書は、海外からの留学医師が、外科学会の認定する施設において一定期間の研修を終了したことを証明するものである。
- 2) 外科学会国際委員会は当該施設より提出された一定書類に従い本証明書の発行を行う。
- 3) 研修期間は6カ月以上とする。
- 4) 本証明書には、外科指導責任者の署名および外科学会会長の署名を必要とする。
- 5) 本証明書発行に必要な費用 (5,000 円) は被証明者負担とする。